

前アクションプラン (2015～2019)	
重点的取組事項と成果	課題
■【共通事項】普及・啓発・発信 ・地域へのESD普及活動を地道に継続 ・ESD活動の見える化が進んだ ・韓国との相互交流	・会員のESD理解、相互交流 ・ESDとSDGsの関係性を理解し、一緒に広げていく ・周知方法・周知内容の改善
■地域・ネットワークづくり ・市民センター等を中心に、活動団体を広げ、ESD的視点を浸透	・地域拠点づくりの強化 ・地域での次世代育成
■多様な教育の場 ・複数の大学と会員が連携して学ぶ体制 ・国際的な発表の機会の提供	・教育機関の連携強化 ・ユースと、教育機関や他ステークホルダーとの連携・協働
■企業 ・SDGs研修実施による人材育成 ・「北九州SDGs未来都市アワード」で優良事例発信	・企業と他ステークホルダーのつながりの構築 ・ユースの就職や起業につながる活躍の機会の提供
■行政機関 ・行政職員や市民センター館長等のESD・SDGs研修 ・「北九州SDGs未来都市アワード」を創設	・協議会が行政職員の人材育成にどのように関わるか検討が必要
■推進体制 ・運営委員会の発足、5つのプロジェクトを推進	・市民や会員の主体的な活動を促進 ・会員間のネットワークづくり ・プロジェクトなど新たな枠組み検討 ・持続可能な拠点のあり方検討

<世界・日本の状況変化>
 2015年 国連サミットでSDGsが採択される
 2018年 北九州市がSDGs未来都市に認定される
 2019年 国連総会でESD for 2030採択、「ESDは全てのSDGsの成功の鍵として、SDGs達成の不可欠な実施手段である」ことを明記

【北九州方式 E S D】・・・前プランを継続

『環境』を出発点にESDを広め、『市民主体』で持続可能な社会を目指す
 『市民主体』・「青空がほしい」と最初に女性たちが声をあげたことから、産学官民が一体となって公害克服した北九州の歴史を基盤に
 ①市民一人ひとりが ②自主的に ③協働で ESDに取り組むことにより、持続可能な地域・社会づくりを目指す

目指す北九州の姿

【北九州市のSDGs戦略(ビジョン)】
 「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」
【ESDで目指すまちの姿】
 個人や団体それぞれが、考えて行動し、お互いにつながり、世界に広がって、持続可能な社会の実現に向けてみんなで一歩を進めるまち

北九州 ESD の将来のビジョン

北九州ESD2021～2025のスローガン
持続可能な地球のため「学び合い」「考え合い」「行動する」北九州ESD

北九州 ESD 協議会 アクションプランの方向性

ウィズコロナの時代にあって新たなチャレンジにも取り組みながら、人と人、人と社会の関わりの中で学びあうESDを推進し、SDGsの達成を目指し活動する。特に、将来の北九州を担う次世代の育成や、SDGsの活動の活発化が予想される企業との連携に取り組む。

- これまでの「北九州方式ESD」を継続
- ESDの理解や周知と、SDGs17の目標を意識した取り組み
- 自立し、かつ相互につながる学びの環の広がり
- 誰一人取り残さない学び、誰もが活躍しやすい環境づくり

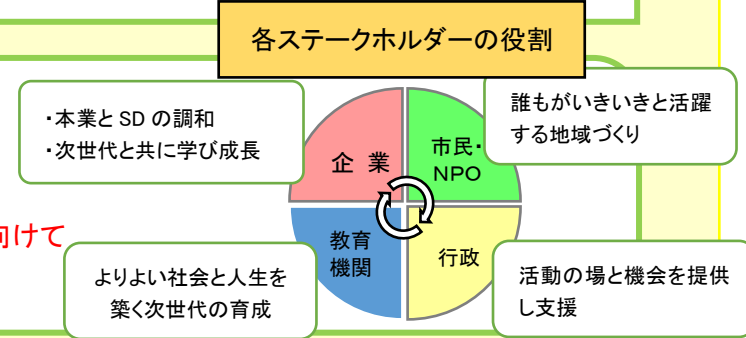
重点的に取り組む事項

①会員による自主的な取り組みの促進
 今までの5年間での各プロジェクト活動を発展させて、各団体による自主的な取り組みをより広げて、発展させていく
 ・地域・コミュニティでの多様な学びの場づくり
 ・継続的な国際交流
 ・地域の歴史など学び、地域への愛着や誇りを育む
 ・北九州の自然と生き物たちを守りゆく

③次世代の育成
 さまざまなステークホルダー(市民団体・地域・企業・教育機関等)とユースをつなぎ、主体的に活動するユースを育成する
 ・ESD・SDGsに取り組む意味・意義を考えるプログラム、教材開発
 ・国内・海外での会議等に積極的に参加し、発表などを通して交流を図る
 ・北九州のESDの原点から現在のSDGsまでを伝え、学びあう場づくり
 ・子育て世代との協働による次世代育成
 ・企業とユースをつなぎ、北九州のまちづくりについて考える

②ステークホルダー同士の連携・地域外との交流
 会員同士の情報共有・交流の機会の活性化および国内外の団体と新たな掛け合わせの場を創出し、多様な連携から重層的な連携を図る
 ・会員の情報を共有、ネットワークづくり強化
 ・北九州市民ブランドとなる「北九州SDGs未来都市アワード」の継続・発展
 ・あらゆる世代の人たちの学びの機会となる出前講座
 ・協議会内外への普及啓発
 ・国内外のRCEや他の地域ESD活動推進拠点との相互交流・学び合い

④協議会の推進体制と活動拠点のあり方
 これまでの活動の成果と課題を踏まえ、活動団体が主体となる次のステージとしての協議会の推進体制と活動拠点を進める
 ・会員が主体となるチームおよびプロジェクト体制
 ・開かれた、風通しの良い推進体制
 ・会員の情報を共有、ネットワークづくりの強化
 ・持続可能な活動のための方策と拠点の検討



- (1) 持続可能な地球について、過去から現在を「学び」、未来を「考える」。
- (2) 国内外の多様な個人・団体・組織等が結びつき、相互に高め合い、深め合う学びあう
- (3) 北九州地域の多くとつながり、持続可能な地球のため自主的・積極的に取り組む
- (4) 持続可能な地球の必要性をそれぞれが理解し、行動する